

岐阜県では平成20年4月より、「障害」を「障がい」と表記することとしているが、国や県が定める法令に規定されている用語、名称等や団体、機関等の固有名称は「障害」の表記を用いることとしているため、本試験においては、「障害」の表記で統一して出題している。

令和4年度採用 養護教諭

志願種別	
受験番号	

【11】 次の①～⑤の文章のうち、「学校保健安全法（平成28年4月1日施行）」の条文の記載として、正しいものを一つ選べ。

- ① 学校の設置者は、その設置する学校の児童生徒等の心身の健康の保持増進を図るため、当該学校の施設及び設備並びに管理運営体制の整備充実その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。
- ② 養護教諭は、学校環境衛生基準に照らし、学校の環境衛生に関し適正を欠く事項があると認められた場合には、遅滞なく、その改善のために必要な措置を講じ、又は当該措置を講ずることができないときは、当該学校の設置者に対し、その旨を申し出るものとする。
- ③ 養護教諭その他の職員は、相互に連携して、健康相談又は児童生徒等の健康状態の日常的な観察により、児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに、必要に応じ、その保護者（学校教育法第十六条に規定する保護者をいう。第二十四条及び第三十条において同じ。）に対して必要な助言を行うものとする。
- ④ 学校においては、毎学年定期的に、児童生徒等（通信による教育を受ける学生を除く。）の健康診断、保健指導を行わなければならない。
- ⑤ 学校の設置者は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

【12】 次の文章中の下線部A～Cのうち、「保健主事のための実務ハンドブック ー令和2年度改訂ー（令和3年3月 公益財団法人 日本学校保健会） 第2章 保健主事の役割 1 学校保健に関する事項の管理に当たる保健主事 （2）学校保健計画の作成と実施 ウ 学校保健計画作成上の留意点」の記載内容として、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

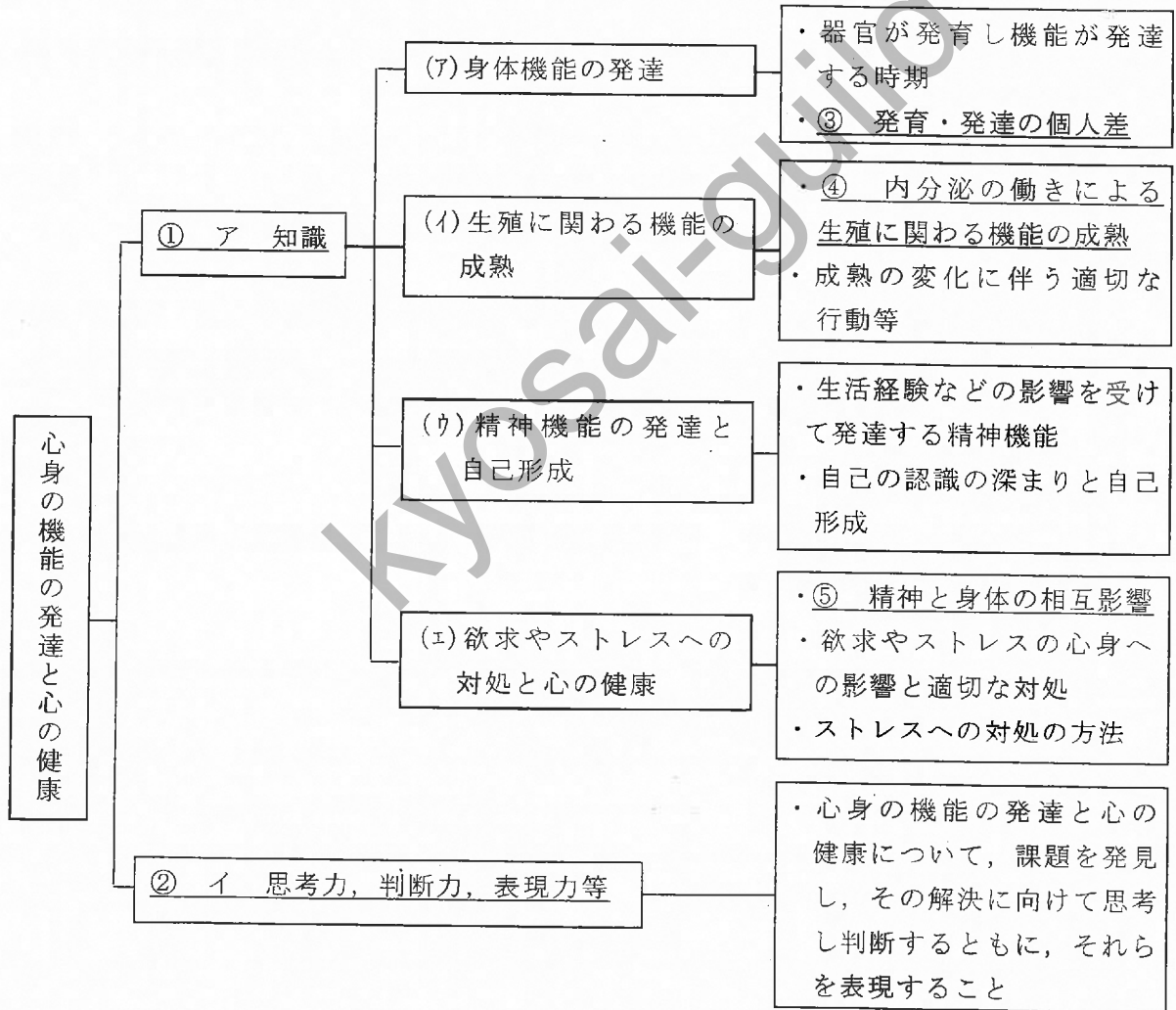
	A	B	C
①	○	○	×
②	○	×	×
③	○	×	○
④	×	×	○
⑤	×	○	○

【13】 次の表は、「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践〔平成30年度改訂版〕（平成30年6月 文部科学省） 第Ⅱ章 学校環境衛生基準 第1 教室等の環境に係る学校環境衛生基準」に示された内容についてまとめたものである。表中のA～Eのうち、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

検査項目		基準	方法
換気及び保温等	(1)換気	換気の基準として、二酸化炭素は、1500ppm以下であることが望ましい。	二酸化炭素は、検知管法により測定する。
	(2)温度	17℃以上、28℃以下であることが望ましい。	A 0.5度目盛のカタ温度計を用いて測定する。
	(3)相対湿度	30%以上、80%以下であることが望ましい。	B 0.5度目盛の乾湿球湿度計を用いて測定する。
	(4)浮遊粉じん	C 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であることが望ましい。	相対沈降径 10 μm以下の浮遊粉じんをろ紙に捕集し、その質量による方法（Low-Volume Air Sampler 法）又は質量濃度変換係数(K)を求めて質量濃度を算出する相対濃度計を用いて測定する。
	(5)気流	0.5m/秒以下であることが望ましい。	D 0.2m/秒以上の気流を測定することができる風速計を用いて測定する。
	(6)一酸化炭素	E 15ppm以下であること。	検知管法により測定する。
	(7)二酸化窒素	0.06ppm以下であることが望ましい。	ザルツマン法により測定する。

	A	B	C	D	E
①	○	×	○	×	○
②	×	○	×	○	×
③	○	○	○	×	×
④	×	○	×	○	○
⑤	○	×	×	○	×

【14】 次の図中の下線部①～⑤の中で、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔保健分野〕 2 内容（2）心身の機能の発達と心の健康」の記載内容として、誤っているものを一つ選べ。



【15】 次の文章中の下線部A～Eのうち、「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂（平成27年8月 公益財団法人 日本学校保健会） 第1章 児童、生徒、学生及び幼児の健康診断の実施 6 その他 ①色覚 留意事項」の記載内容として、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

	A	B	C	D	E
①	○	○	○	×	×
②	×	×	×	○	○
③	○	×	○	○	○
④	×	○	×	×	×
⑤	○	×	×	○	○

- 【16】 次の文章中の下線部①～⑤のうち、「学校における薬品管理マニュアル（平成21年7月公益財団法人 日本学校保健会）第2章 学校での医薬品取扱いに関する対応 1 一般用医薬品の取扱いに関する対応（1）学校における共通理解」の記載内容として、誤っているものを一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。



- 【17】 次の表は、「学校保健の課題とその対応—養護教諭の職務等に関する調査結果から—」（令和2年度改訂）（令和3年3月 公益財団法人 日本学校保健会）Ⅱ 保健管理 第1節 救急処置」についてまとめたものである。表中の（ A ）～（ E ）に当てはまる言葉として正しいものの組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

※上記1) 及び2) は、原文では①及び②、また、ア～エは、原文では1) ～4) であるが、解答番号と区別するため変更している。

- |   |                               |        |           |          |
|---|-------------------------------|--------|-----------|----------|
| ① | A：重症化する<br>E：保護者              | B：二次障害 | C：安全教育の徹底 | D：複数で対応  |
| ② | A：重症化する<br>E：教育委員会等の学校の設置者    | B：一次障害 | C：情報の共有化  | D：複数で対応  |
| ③ | A：生命の危険に陥る<br>E：保護者           | B：二次障害 | C：情報の共有化  | D：窓口を一本化 |
| ④ | A：生命の危険に陥る<br>E：保護者           | B：二次障害 | C：安全教育の徹底 | D：窓口を一本化 |
| ⑤ | A：生命の危険に陥る<br>E：教育委員会等の学校の設置者 | B：一次障害 | C：情報の共有化  | D：複数で対応  |



- 【18】 次の表は、「学校において予防すべき感染症の解説（平成30年3月 公益財団法人 日本学校保健会）Ⅲ 感染症各論 2. 第二種の感染症」についてまとめたものである。表の（ A ）～（ E ）に当てはまる言葉として正しいものの組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- |   |                  |         |        |        |
|---|------------------|---------|--------|--------|
| ① | A : 3日<br>E : 3回 | B : 3日間 | C : 2日 | D : 5日 |
| ② | A : 5日<br>E : 2回 | B : 3日間 | C : 3日 | D : 3日 |
| ③ | A : 3日<br>E : 2回 | B : 5日間 | C : 3日 | D : 5日 |
| ④ | A : 5日<br>E : 3回 | B : 5日間 | C : 3日 | D : 5日 |
| ⑤ | A : 5日<br>E : 3回 | B : 5日間 | C : 2日 | D : 3日 |

- 【19】 次の文章は、「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂（平成27年8月 公益財団法人 日本学校保健会） 第1章 児童，生徒，学生及び幼児の健康診断の実施 5 方法及び技術的基準 13 尿 検査の実際 方法」を示したものである。文章中の（ A ）～（ C ）に当てはまる正しい語句の組合せを，下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① A：風通しの良い場所      B：糖尿      C：ビタミンC
- ② A：風通しの良い場所      B：血尿      C：ビタミンC
- ③ A：風通しの良い場所      B：血尿      C：ビタミンA
- ④ A：風の当たらない場所      B：糖尿      C：ビタミンC
- ⑤ A：風の当たらない場所      B：血尿      C：ビタミンA

- 【20】 次の文章中の下線部①～⑤のうち、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会） 第1章 総論 4.『学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）』に基づく取組 4-1 学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）とは」の記載内容として、誤っているものを一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- 【21】 次の文章中の下線部A～Eのうち、『体育活動における熱中症予防』調査研究報告書（平成26年3月 独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校災害防止調査研究委員会）第4編 熱中症の基礎知識と予防，発生した場合の救急処置の留意点」の記載内容として，正しいものを○，誤っているものを×としたとき，○×の正しい組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

	A	B	C	D	E
①	○	○	×	○	○
②	×	×	○	○	○
③	○	×	×	○	×
④	×	○	×	×	×
⑤	○	○	○	×	○

- 【22】 次の文章中の下線部A～Eのうち、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応（平成21年3月 文部科学省）第4章 心の健康問題への対応 3 教職員の役割」の記載内容として、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

(4) 養護教諭

養護教諭は、心の健康問題のある子どもを支援していることが多いことに加え、担任、保護者からの相談依頼も多いため、学校における心の健康問題への対応に当たっては、中心的な役割を果たすことが求められている。

(中略)

●養護教諭の役割のポイント

- ア 子どもの心の健康問題の解決に向けてA 中核として保健主事を助け円滑な対応に努める。
- イ 学級担任等と連携した組織的なB 健康観察、健康相談、保健学習を行う。
- ウ 子どもの心身の健康状態を日ごろから的確に把握し、問題の早期発見・早期対応に努める。
- エ 受診等の必要性の有無を判断する。
- オ 子どもが相談しやすいC 保健室の環境づくりに努める。
- カ 子どもの訴えを受け止め、心の安定が図れるように配慮する。
- キ 常に情報収集に心がけ、D 問題の背景要因の把握に努める。
- ク 子どもの個別の教育支援計画作成に参画する。
- ケ 学校ではどこまで対応できるのか見立てを明確にする。
- コ 校内関係者や関係機関等との連携調整等を行う。
- サ E 医学的な情報を教職員等に提供する。
- シ 地域の医療機関や相談機関等の情報を教職員等へ提供する。

※上記ア～シの記号は、原文では①～⑫であるが、解答番号と区別するために変更している。

	A	B	C	D	E
①	○	○	○	×	○
②	×	×	×	○	×
③	×	○	×	○	○
④	○	×	○	×	×
⑤	×	×	○	○	○

【23】 次の文章の下線部①～⑤のうち、「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂（平成27年8月 公益財団法人 日本学校保健会）第1章 児童、生徒、学生及び幼児の健康診断の実施 5 方法及び技術的基準 4 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態」の記載内容として、誤っているものを一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- 【24】 次の文章中の下線部A～Dのうち、「学校における麻疹対策ガイドライン 第二版（平成30年2月 国立感染症研究所感染症疫学センター） 麻疹に関する基礎知識 1. 麻疹とは（3）麻疹の症状」の記載内容として、誤っているものの組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

麻疹に対する免疫をもっていない人の体内に麻疹ウイルスが侵入すると、体の中でウイルスが増殖しはじめます。増えたウイルスは血流等によって全身にひろがります。この間は無症状で(潜伏期と言います)、その期間はおよそ A 10～12日間です。

潜伏期の後 B 39～40℃台の高熱、せき、のどの痛み、鼻水、めやに、目が赤くなる、体がだるいといった症状が出はじめ、症状は C 4～5日間続きます。この時期をカタル期と呼びますが、この時期の症状は麻疹に特徴的なものではありませんので、かぜと診断されることもよくあります。麻疹は、その経過中で発熱する D 3日前くらいから他者への感染力が生じるといわれていますので、知らないうちに多くの人に麻疹をうつしてしまうことになりかねません。カタル期の感染力が最も強いと考えられていますので、麻疹の疑いがある場合には、早期に対処することが重要です。

(以下略)

- ① A ・ B  
② A ・ D  
③ B ・ C  
④ B ・ D  
⑤ C ・ D



- 【25】 次の文章は、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省） 第3章 各活動・学校行事の目標及び内容 第1節 学級活動 1 学級活動の目標」の一部を示したものである。文章中の（ A ）～（ C ）に当てはまる正しい語句の組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

（略）

学級活動において育成することを目指す資質・能力は、問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りといった基本的な学習過程の中で育まれるものである。その際、（ A ）する話し合い活動を通して取り組む学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」と、話し合いを生かして具体的な実践方法等を意志決定する学級活動「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の、それぞれの特質を踏まえた学習過程とする必要がある。

（中略）

学級活動(2)、(3)においては、(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した（ B ）に関する課題という違いがあるが、問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りという基本的な学習過程は同じである。なお、教師がこれらの活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「（ C ）」と称す。ここでいう問題の発見・確認とは、児童一人一人が日常生活や将来に向けた自己の生き方に関して、課題を確認し、解決の見通しをもつことである。解決方法等の話し合い、解決方法の決定とは、話し合いを通して自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った解決方法を自分で決めるなど、「意思決定」するまでの過程を示している。また、決めたことの実践、振り返りについては、意思決定しただけで終わることなく、決めたことについて粘り強く実践したり、一連の活動を振り返って成果や課題を確認し、自分の努力に自信を深めたり、更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めたりすることが重要であることも意図して示したものである。

（以下略）

- |   |         |         |      |
|---|---------|---------|------|
| ① | A：考え、議論 | B：生活や学習 | C：単元 |
| ② | A：合意形成  | B：社会参画  | C：題材 |
| ③ | A：合意形成  | B：生活や学習 | C：単元 |
| ④ | A：考え、議論 | B：社会参画  | C：単元 |
| ⑤ | A：合意形成  | B：生活や学習 | C：題材 |

- 【26】 次の文章は、「子供に伝えたい自殺予防 学校における自殺予防教育導入の手引（平成26年7月 文部科学省） 第3章 学校における自殺予防教育プログラムの展開例1. 子供を対象とした自殺予防教育プログラムの方向性（2）プログラムの特徴」について示したものである。文章中の（A）～（D）に当てはまる正しい語句の組合せを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

（2）プログラムの特徴

1）価値の押しつけを避ける

「いのちは大切」といった価値観を一方向的に与えるのではなく、（A）を通じていのちについて考えることをねらいとしました。正しいと自明視されているものとして価値観を示されると、身近な人を自殺で亡くした人や自傷行為をしてしまう子供たちは、「いのちを大切にできない親（自分）は駄目な存在」と自らを責め、より一層自尊感情を低めてしまう恐れがあります。教師と子供と一緒に自殺や死の問題について考えることを通して、生きづらさを抱えている子供に少しでも寄り添うことを目指して、本プログラムを構想しました。また、それは、生涯にわたる（B）の基礎を作ることでもあると考えています。

2）グループワークを重視する

（略）

また、授業方法としては、教師の一方向的な知識伝達のスタイルではなく、教師と子供、子供同士が自殺予防について学び合う相互交流を重視したいものです。

授業にグループワークを取り入れる効果として、

- ・子供同士のつながりを強化する効果
- ・（C）への気付きや対応に取り組む意欲を高める効果
- ・子供自身の危機に際しての（D）能力を高める効果

などが期待できます。

- |   |      |              |        |        |
|---|------|--------------|--------|--------|
| ① | A：五感 | B：メンタルヘルス    | C：命の危機 | D：危機管理 |
| ② | A：心  | B：ヘルスプロモーション | C：心の問題 | D：危機管理 |
| ③ | A：五感 | B：メンタルヘルス    | C：命の危機 | D：問題解決 |
| ④ | A：心  | B：メンタルヘルス    | C：心の問題 | D：問題解決 |
| ⑤ | A：五感 | B：ヘルスプロモーション | C：命の危機 | D：問題解決 |

- 【27】 次の文章中の下線部A～Eのうち、「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践〔平成30年度改訂版〕（平成31年3月 文部科学省）第Ⅱ章 学校環境衛生基準 第1 教室等の環境に係る学校環境衛生基準 1 換気及び保温等（8）揮発性有機化合物 B 検査方法等の解説 ア ホルムアルデヒド」の記載内容として、誤っているものの組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

ア 検査回数

A 毎学年2回、教室等内の温度が高い時期に定期に行うが、どの時期が適切かは地域の特性を考慮した上、学校で計画立案し、実施する。

ただし、児童生徒等がいない教室等において、B 30分以上換気の後、5時間以上密閉してから採取し、ホルムアルデヒドにあつては、高速液体クロマトグラフ法（HPLC）により測定した場合に限り、その結果が著しく基準値を下回る場合には、以後教室等の環境に変化が認められない限り、次回からの検査を省略することができる。

（中略）

イ 検査場所

検査は、普通教室、音楽室、図工室、コンピュータ室、体育館等必要と認める教室等において行う。

（中略）

体育館等では部屋の中央付近、C 高さ30～100cmの位置で行う。体育館等の使用時は、使用状況にあわせて少なくとも壁から1m以上離れた場所、2か所以上で採取する。

ウ 検査方法

【検査時の事前措置】

教室の濃度を外気濃度と同じ程度にするため、教室等の窓、戸、戸棚等を開けて30分以上換気する。その後、D 開放したところを閉め、そのまま1時間以上放置する。

【検体の採取法】

空気の採取は、授業を行う時間帯（E 揮発性有機化合物濃度の日変動が最大となると予想される午後2時～3時頃が望ましい）に机上の高さで行う。採取は、原則として、児童生徒等がいない教室等において窓等を閉めた状態で行う。（以下略）

※上記ア、イ、ウの記号は、原文では①、②、③であるが、解答番号と区別するため変更している。

- ① A ・ B ・ E
- ② A ・ C ・ D
- ③ A ・ C ・ E
- ④ B ・ C ・ D
- ⑤ B ・ D ・ E

- 【28】 次の文章中の下線部A～Cのうち、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気付き、支え、つなぐために～（平成29年3月 文部科学省） 第3部 学校用 ○通級担当教員，特別支援学級担任及び養護教諭用 3. 養護教諭の役割」の記載内容として、正しいものを○，誤っているものを×としたとき，○×の正しい組合せを，下記の①～⑤の中から一つ選べ。

(略)

(1) 児童等の健康相談等を行う専門家としての役割

(中略)

養護教諭は、障害のある児童等に対しては、A 健康教育を念頭に置き、個別に話を聞ける状況を活用しつつ、児童等に寄り添った対応や支援を行うことが重要になります。

また、児童等から収集した情報については、必要に応じて各学級の担任や他の関係する教職員と共有することが大切です。

(2) 特別支援教育コーディネーターとの連携と校内委員会への協力

養護教諭は、職務の特質から、児童等の心身の健康課題を発見しやすい立場にあります。また、校内での学年等の枠や校種間を超えて、情報を収集することもできます。情報収集に当たっては、B 特別支援教育コーディネーターと事前に協議し、校内での効果的な情報の共有を図ることを心掛けます。定期的な相談や情報交換を行う体制づくりが大切です。

これらのことから、校内委員会の構成員になることが望ましいといえます。

(3) 教育上特別の支援を必要とする児童等に配慮した健康診断及び保健指導の実施

養護教諭は、教育上特別の支援を必要とする児童等に配慮した健康診断及び保健指導を実施する必要があります。

健康診断における困難さとして、例えば、LD（学習障害）があり、ランドルト環方式の視力検査が苦手だったり、ADHD（注意欠陥多動性障害）があり、聴力検査や心電図検査が円滑にできなかつたりすることが挙げられます。

こうした児童等が在籍する場合は、あらかじめ校内委員会等において、健康診断及び保健指導の計画の立案等を積極的に行い、方針を決めた上で、C 事前に保護者と相談を行いつつ、健康診断を実施することが重要です。

健康診断と保健指導をきっかけに、保護者との連携を深めることもできます。

(以下略)

	A	B	C
①	○	○	×
②	○	×	×
③	×	○	○
④	×	○	×
⑤	×	×	○

- 【29】 次の文章中の下線部A～Eのうち、『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月 文部科学省）第4章 事故等発生時における心のケア 第1節 事故等発生時における心のケア 2 事故等発生時における心のケアの基本的理解」の記載内容として、誤っているものの組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

事故等発生時に求められる心のケアは、ストレスの種類や内容により異なるが、心のケアを適切に行うためには、児童生徒等に現れるストレス症状の特徴や基本的な対応を理解しておくことが必要である。

(1) 事故等発生時におけるストレス症状

ア 児童生徒等のストレス症状の特徴

事件や事故、大きな災害に遭遇すると、恐怖や喪失体験などのA 心理的ストレスによって、心の症状だけでなく身体症状も現れやすいことが児童生徒等の特徴である。また、症状は心理的ストレスの種類・内容、ストレスを受けてからの時期によって変化する。そのようなストレス症状には、情緒不安定、体調不良、睡眠障害などB 年齢を問わず見られる症状と、年齢や発達の段階によって異なる症状が含まれる。

(中略)

小学校の高学年以降（中学校、高等学校を含む）になると、身体症状とともに、元気がなくなって引きこもりがちになる（うつ状態）、ささいなことで驚く、夜間に何度も目覚めるなどの症状が目立つようになり、C 大人と同じような症状が現れやすくなる。

(中略)

イ 心的外傷後ストレス障害 Post Traumatic Stress Disorder（以下「PTSD」という）

事故等発生後に、ASDで見られる再体験症状（侵入症状）、回避症状、認知と気分の陰性の変化、過覚醒症状などの強いストレス症状がD 2週間以上持続した場合はPTSDと呼ぶ。また、これらの症状は、事故等発生から半年以上も経過してから出現する可能性があることを念頭に置く必要がある。PTSDはASDと異なり、E 時間とともに自然治癒することが多い。（以下略）

※上記ア、イの記号は、原文では①、②であるが、解答番号と区別するため変更している。

- ① A ・ B
- ② B ・ C
- ③ C ・ D
- ④ D ・ E
- ⑤ E ・ A

【30】 次のア～エの文章のうち、「教職員のための指導の手引 ～UPDATE！ エイズ・性感染症～（平成30年3月 公益財団法人 日本学校保健会） 1. エイズ及び性感染症に関する指導のあり方 （イ）エイズ及び性感染症に関する指導の考え方 ②エイズ及び性感染症に関する指導の留意事項 1）性に関する指導について」の記載内容として、正しいものを○，誤っているものを×としたとき，○×の正しい組合せを①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	○	○	×
②	×	○	×	○
③	○	×	×	○
④	×	○	○	×
⑤	○	×	×	×



---

kyosai-guild



令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験  
第1次選考試験 養護教諭

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	③	③	②	①	⑤	②	④	④	②	③

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	①	⑤	①	④	⑤	③	②	③	④	①

kyosai-guide

---

kyosai-guild